

学校の適正な規模について

○ 学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）

第 41 条 小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときは、この限りでない。

（第 79 条：中学校もこれを準用する）

○ 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」（P9）

「小学校では、まず複式学級を解消するためには少なくとも 1 学年 1 学級以上（6 学級）であることが必要になります。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学級活動の特質に応じて学級を越えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには 1 学年 2 学級以上（12 学級以上）あることが望ましいものと考えられます。

中学校についても、全学年でクラス替えを可能としたり、学級を越えた集団編成を可能としたり、同学年に複数教員を配置するためには、少なくとも 1 学年 2 学級以上（6 学級以上）が必要となります。また、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも 9 学級以上を確保することが望ましいものと考えられます。」と示されている。

○ 学校規模に関する基準

学校規模	過小規模	小規模	学校統合の場合の適正規模		大規模	過大規模
			適正規模			
学級数	1～5	6～11	12～18	19～24	25～30	31以上

「これからの学校施設づくり」（昭和 59 年文部省助成課資料）

メリット
<ul style="list-style-type: none"> ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細やかな指導が行いやすい ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学びあう活動を充実させることができる ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT 機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる
デメリット
<p>【学級数が少ないことによる学校運営上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① クラス替えが全部または一部の学年でできない ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる ⑥ 男女比の偏りが生じやすい ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる ⑪ 教科等が得意な子どもの考えにクラス全体が引っ張られがちとなる ⑫ 生徒指導上課題がある子どもの問題行動に、クラス全体が大きく影響を受ける ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる

⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

(複式学級の課題)

- ① 教員に特別な指導技術が求められる
- ② 複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい
- ③ 単式学級と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある
- ④ 実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる
- ⑤ 兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生ずる可能性がある

【教員数が少なくなることによる学校運営上の課題】

- ① 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる
- ④ ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる
- ⑤ 教職員一人当たりの校務負担や行事にかかわる負担が重く、校内研修の時間が十分に確保できない
- ⑥ 学年によって学級数や学級当たりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生ずる
- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい(学年会や教科会等が成立しない)
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる

学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- ① 集団の中で自己主張したり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる
- ④ 教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある

- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある
- ⑦ 進学等の際に大きな集団への適応に困難をきたす可能性がある
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい

※文部科学省：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引より抜粋

令和4年度 児童生徒数と学級数・教職員配置数

令和4年5月1日現在

校種	No.	学校名	児童・生徒数	標準学級数	実学級数	校長	教頭	児童・生徒支援	少人数指導	県35人学級化	通級指導	初任者研修	特別支援学級	地域コ	専科等	加配合計	教員数合計 (加配含む、 校長、教頭除く)	養護教諭	事務職員	栄養教諭	教職員合計
小学校	1	東岐波小	556	19	21	1	1		1	2	1					4	25	1	1	1	28
	2	西岐波小	678	25	27	1	1			1	1	1				3	32	1	1	1	35
	3	恩田小	712	26	27	1	1	1		1		1			1	4	33	2	1	1	37
	4	上宇部小	614	22	25	1	1	1	1	2					1	5	30	2	2	1	35
	5	岬小	154	9	10	1	1		1	0	2			1		4	15	1	1		17
	6	見初小	104	7	7	1	1			0						0	7	1	1		9
	7	琴芝小	280	14	16	1	1			0						0	17	1	1	1	20
	8	神原小	334	14	15	1	1			0			1			1	17	1	1		19
	9	新川小	469	21	21	1	1	1		0						1	24	1	1	1	27
	10	鵜ノ島小	128	8	8	1	1			0						0	9	1	1		11
	11	藤山小	520	20	21	1	1	1		1	1				1	4	26	1	1		28
	12	厚南小	578	21	21	1	1			0	1				2	3	26	1	1	1	29
	13	原小	291	14	15	1	1	1	1	0						2	18	1	1		20
	14	厚東小	73	6	7	1	1			0						0	7	1	1		9
	15	二俣瀬小	25	4	4	1	1			0						0	4	1	1	1	7
	16	小野小	18	3	5	1	1			0						0	5	1	1		7
	17	常盤小	449	17	20	1	1			3		1			1	5	24	1	1	1	27
	18	小羽山小	301	13	14	1	1		1	0						1	16	1	2	1	20
	19	西宇部小	274	13	14	1	1			1	1				1	3	17	1	1	1	20
	20	川上小	417	14	16	1	1			1					1	2	18	1	1	1	21
	21	黒石小	681	23	25	1	1	2		1		1	1		1	6	32	1	1	1	35
	22	吉部小	22	3	3	1	1			0						0	3	1	1		5
	23	万倉小	28	3	3	1	1			0						0	3	1	1		5
	24	船木小	127	8	8	1	1			0	1					1	10	1	1	1	13
		小合計	7833	327	353	24	24	7	5	13	8	4	2	1	9	49	418	26	26	14	484
中学校	1	東岐波中	293	10	11	1	1	1	1	1						3	18	1	1		20
	2	西岐波中	435	15	16	1	1	1	1							2	24	1	1		26
	3	常盤中	529	19	20	1	1	1	1	1	1					4	34	1	1		36
	4	上宇部中	403	15	16	1	1	1	3			1				5	28	1	4		33
	5	神原中	198	8	10	1	1	1			1			1		3	16	1	1		18
	6	桃山中	326	12	15	1	1	1		1						2	22	1	1		24
	7	藤山中	328	13	14	1	1	1	2	1		1				5	24	1	1		26
	8	厚南中	382	14	15	1	1	1	1	1	1					4	25	1	1		27
	9	川上中	230	8	11	1	1		1							1	15	1	1		17
	10	黒石中	430	15	16	1	1	1								1	24	1	1		26
	11	楠中	89	5	5	1	1									0	8	1	1		10
	12	厚東川中	44	4	5	1	1									0	8	1	1		10
		中合計	3687	138	154	12	12	9	10	5	3	2	0	1	0	30	246	12	15	0	273
		総計	11520	465	507	1	1	16	15	18	11	6	2	2	9	79	664	38	41	14	757

小中連携、小中一貫、小中一貫教育制度の関係


小中連携教育 小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

小中一貫教育 小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指す教育

①義務教育学校

・新たな学校種(一つの学校)
⇒一人の校長、一つの教職員組織


修業年限:9年
(前期課程6年+後期課程3年)



小中一貫型小学校・中学校

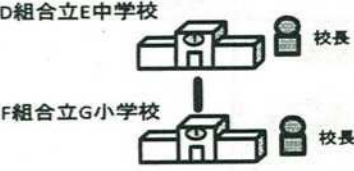
・組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態
⇒それぞれの学校に校長、教職員組織

**②併設型小学校・中学校
(同一の設置者)**



※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件
例・総合調整を担う校長を定める
・学校運営協議会の合同設置
・校長等を併任

**③連携型小学校・中学校
(異なる設置者)**



※併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備すること

※①②③いずれも施設の形態は問わない。

※出典：小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き（文部科学省）

		義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校	
			中学校併設型小学校 小学校併設型中学校	中学校連携型小学校 小学校連携型中学校
設置者		—	同一の設置者	異なる設置者
修業年限		9年 (前期課程6年+後期課程3年)	小学校6年、中学校3年	
組織・運営		一人の校長、一つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織	
			小学校と中学校における教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整えることが要件 ① 関係校を一体的にマネジメントする組織を設け、学校間の総合調整を担う校長を定め、必要な権限を教育委員会から委任する ② 学校運営協議会を関係校に合同で設置し、一体的な教育課程の編成に関する基本的な方針を承認する手続を明確にする ③ 一体的なマネジメントを可能とする観点から、小学校と中学校の管理職を含め全教職員を併任させる	中学校併設型小学校と小学校併設型中学校を参考に、適切な運営体制を整備すること
免許		原則小学校・中学校の両免許状を併有 ※ 当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能	所属する学校の免許状を保有していること	
教育課程		・9年間の教育目標の設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成		
教育課程の特例	一貫教育に必要な独自教科の設定	○	○	○
	指導内容の入替え・移行	○	○	×
施設形態		施設一体型・施設隣接型・施設分離型		
設置基準		前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準を適用	
標準規模		18学級以上27学級以下	小学校、中学校それぞれ12学級以上18学級以下	
通学距離		おおむね6km以内	小学校はおおむね4km以内、中学校はおおむね6km以内	
設置手続き		市町村の条例	市町村教育委員会の規則等	

◆第 2 期教育振興基本計画

〈基本理念〉

「自立」と「共存同栄」 字部を愛し、未来を拓くひとづくり

新たな教育振興基本計画の基本理念では、「自立」する心とともに、「共存同栄」の心も大切にしていきます。

自らが主体的に社会に関わり合い、新たな価値を創造し将来を作り出していくために、向上心をもって学び、自らを磨き上げていく「自立」の心とともに、多様な一人ひとりが互いの人格を尊重し支え合い、社会の中で自らの役割と責任を果たし、活躍するために、学び合いながら、互いに高め合っていく「共存同栄」の精神（ころ）で、未来への可能性の扉を開き、ありがたい姿、自らの夢・希望の実現へと繋げていきます。

この基本理念は、4 つの基本目標とすべての施策に共通するものです。

< **基本理念** > 「自立」と「共存同栄」宇部を愛し、未来を拓く
ひとづくり

< **基本目標 1** > 子どもたちの夢・希望の実現に向けた学びと
社会の変化に対応した教育を推進します

< **基本目標 2** > 共生社会の実現とSDGsの達成に向け
人と人が助け合い、支え合う教育活動を展開します

< **基本目標 3** > 生涯にわたり学び続ける環境と地域ぐるみで
子どもを支える体制を整えます

< **基本目標 4** > 安心・安全に過ごせる質の高い教育環境を
実現します

◆児童生徒に最適な教育環境を提供するための、

学校のあるべき姿と実現に向けた取組

(1) 学校のあるべき姿

児童・生徒が、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける**集団規模**のもとで、**小中一貫教育**を完全実施し、義務教育9年間を通した子どもたちの確かな学び（健やかな成長）を保障する

【理想の形】

・子どもの社会性を育むことが出来る集団規模を確保しつつ、小中学校が、通学区域の中心にあり、同一敷地又は隣接地に小中学校がある義務教育学校の設置

(2) 現状(問題点)

■小中一貫教育

- ①進学先の中学校が分かれる小学校では、進学する中学校によってめざす子ども像などの取り組みが異なるため、系統的な教育が難しい。
- ②中学校に接続する小学校が多いほど、児童生徒間、教職員間の直接的な交流や乗り入れ授業の実施は難しくなる。
- ③小規模校では、教員数の一人当たりの担当授業時間数が多くなるため、学校間交流に出向く時間を取ることが難しい。また、教科担任制の導入や中学校教員の小学校乗り入れ等の実施が難しい。
- ④小学校と中学校との距離が離れている場合は、交流をする際、移動時間がかかることなどの理由から実施が難しい。

<小中一貫教育実施校>

中学校	小学校
東岐波	東岐波
西岐波	西岐波・常盤
常盤	恩田・岬・常盤・琴芝
上宇部	上宇部・琴芝
神原	神原・見初
桃山	新川・小羽山・鵜ノ島
藤山	藤山・鵜ノ島
厚南	厚南・西宇部
厚東川	厚東・二俣瀬・小野
川上	川上
黒石	黒石・原
楠	船木・万倉・吉部

■ 集団規模

○完全複式学級の学校が4校（北部地域）

○全ての学年が1学級が5校（中心市街地）

< 令和4年度の学級数と児童・生徒数 >

令和4年5月1日現在

小学校名（児童数）					校数	学級数	校数	中学校名（生徒数）		
小野 (18)	万倉 (28)	二俣瀬 (25)	吉部 (22)		4	3	2	厚東川 (44)	禰 (89)	
複式学級					0	4	0	全ての学年が1学級		
					0	5	0			
岬 (154)	船木 (127)	竊ノ島 (128)	見初 (104)	厚東 (73)	5	6	0			
全ての学年が1学級					0	7	1	神原 (198)		
					0	8	1	川上 (230)		
					0	9	0			
					0	10	1	東岐波 (293)		
					1	11	2	藤山 (328)	桃山 (326)	
					1	12	2	厚南 (382)	上宇部 (403)	
					1	13	2	黒石 (430)	西岐波 (435)	
					0	14	0			
					0	15	0			
					1	16	0			
					1	17	1	常盤 (529)		
12～18学級					2	18	0	12～18学級		
					1	19	0			
					1	20	0			
					1	21	0			
					1	22	0			
19学級以上					1	23	0			

○全ての学年が1学級が2校（北部地域）

○国の基準による標準学級数は満たしていないが、全ての学年でクラス替えができる2学級は超えている

○国の基準による標準学級数の学校が9校

○常盤中は500人を超えており、6年後も同水準の見込み

○国が示す大規模校基準（25学級以上）の学校はない

○恩田小は6年後も23学級であり、近隣の学校規模との差が生じている

(3) あるべき姿の実現に向けた取組

■小中一貫教育

- ①小中ブロックを見直し、進学先が分かれる小学校の解消を図る。
(将来的に学校選択制は廃止)
- ②近接する小中学校や統合後も小規模が継続する学校では義務教育学校の設置も検討。

■集団規模

- ①一定の集団規模を確保していくため適正規模の基準を定める。
- ②適正規模の基準をもとに、通学区域の変更や適正配置を推進していく。

宇部市立小中学校適正規模・適正配置に関するアンケート（案）

1 調査方法

対象	<ul style="list-style-type: none">・小中学校児童生徒の保護者・保育園、幼稚園、育児サークル等利用保護者（未就学児の保護者）・学校運営協議会委員・小中学校児童生徒（小5，中2）・市民モニター
調査方法	<ul style="list-style-type: none">・小中学校児童生徒及び未就学児の保護者、学校運営協議会委員に案内チラシ（QRコード付）の配布・児童生徒はアンケート用紙配布

2 調査期間

令和4年6月20日～7月5日

3 調査項目

【児童生徒以外】

- ・ 回答者の性別
- ・ 回答者の年齢（児童生徒は学年）
- ・ 居住地区（校区）

問1 あなたは、子どもたちの教育環境として、**小学校の1学級**に何人以上の児童が在籍することが望ましいと思いますか。

- 1 10人以下でもよい
- 2 11～15人
- 3 16～20人
- 4 21～25人
- 5 26～30人
- 6 31～35人

問2 あなたが、子どもたちの教育環境として、ふさわしいと思う**小学校の同一学年の学級数**は何学級ですか。

- 1 複式学級でもよい
- 2 1学級
- 3 2～3学級
- 4 4学級以上

問3 問2で「複式学級でもよい」または「1学級」と答えられた方は、そう思われる理由をお答えください。

- 1 一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる。
- 2 学校行事で一人ひとりが自主的に活躍できる場がある
- 3 異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友達ができやすい
- 4 同じ児童と同じクラスで過ごせ親密になれる
- 5 その他 ()

問4 問2で「2～3学級」または「4学級以上」と答えられた方は、そう思われる理由をお答えください。

- 1 クラス替えにより人間関係に変化を持たせることができ、友達もたくさんできる
- 2 子ども同士が刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える
- 3 協調性を養う機会に恵まれる
- 4 たくさんの先生や友達から、多様な考えに触れる機会がある
- 5 その他 ()

問5 あなたは、子どもたちの教育環境として、**中学校の1学級**に何人以上の児童が在籍することが望ましいと思いますか。

- 1 10人以下でもよい
- 2 11～15人
- 3 16～20人
- 4 21～25人
- 5 26～30人
- 6 31～35人

問6 あなたが、子どもたちの教育環境として、ふさわしいと思う**中学校の同一学年の学級数**は何学級ですか。

- 1 複式学級でもよい
- 2 1学級
- 3 2～3学級
- 4 4学級以上

問7 問6で「複式学級でもよい」または「1学級」と答えられた方は、そう思われる理由をお答えください。

- 1 一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる
- 2 学校行事で一人ひとりが自主的に活躍できる場がある
- 3 異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友達ができやすい
- 4 同じ生徒と同じクラスで過ごせ親密になれる
- 5 その他 ()

問8 問6で「2～3学級」または「4学級以上」と答えられた方は、そう思われる理由をお答えください。

- 1 クラス替えにより人間関係に変化を持たせることができ、友達もたくさんできる
- 2 子ども同士が刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える
- 3 協調性を養う機会に恵まれる
- 4 たくさんの先生や友達から、多様な考えに触れる機会がある
- 5 その他 ()

問9 児童生徒数が少ない小規模校の対策として、どの方法が適切だと考えますか。(2つ以内に○)

- 1 通学区域を変更する(隣接する大規模校の通学区域の一部を小規模校へ変更するなど)
- 2 近隣の学校と統合する
- 3 ICTを活用した遠隔授業を実施し存続させる
- 4 分校として存続させる
- 6 その他 ()

問10 子どもたちにとって最適な教育環境を維持するため、小中学校の適正配置の見直しを進めるうえで、あなたが特に重視すべき点をお答えください

- 1 児童生徒数や学級数
- 2 通学距離・通学時間
- 3 通学区域の安全性
- 4 学校施設の充実
- 5 学校と地域のつながり
- 6 その他 ()

【児童・生徒用】

・あなたの学校名・学年をお答えください

() 小学校 () 学年

() 中学校 () 学年

問1 学校までの通学時間を選んでください

- 1 15分以内
- 2 30分以内
- 3 45分以内
- 4 60分以内
- 5 60分を超える

問2 学校までの通学距離についてどのように思いますか。

- 1 近い
- 2 少し近い
- 3 ちょうどよい
- 4 少し遠い
- 5 遠い

問3 1クラスの人気は、何人くらいがよいと思いますか。

- 1 10人以下でもよい
- 2 11～15人
- 3 16～20人
- 4 21～25人
- 5 26～30人
- 6 31～35人

問4 1つの学年は何クラスが良いと思いますか。

- 1 複式学級でもよい
- 2 1学級
- 3 2～3学級
- 4 4学級以上

問5 あなたが通っている学校で「良い」と感じることを3つまで選んでください。

- 1 多くの友達と力を合わせて勉強や運動をすることが多い
- 2 何か問題があったときも、先生がすぐに気づいてくれる
- 3 クラス替えがあり、友達がたくさんできる
- 4 クラス替えがないので、友達とのつながりが深まる
- 5 いろんな学年の子と触れ合う機会が多い
- 6 部活動（クラブ活動）の種類がたくさんある
- 7 学校行事で一人ひとりが中心となって活躍できる場面がある
- 8 同級生が多いので、たくさんの考え方を知ることができる
- 9 他に「良いな」と感じるものがあれば書いてください

()

問6 あなたが通っている学校で「良くない」と感じることを3つまで選んでください。

- 1 多くの友達と力を合わせて勉強や運動をすることが少ない
- 2 何か問題があったときも、先生に気づかれにくい
- 3 クラス替えがないので、たくさんの友達をつくりにくい（友達が広がりにくい）
- 4 クラス替えがあるので、学年が変わっても長く付き合える友達ができにくい
- 5 違う学年の子ども同士で触れ合う機会が少ない

- 6 部活動（クラブ活動）の種類が少ない
- 7 学校行事で自分ひとりが中心となって活躍できる場面が少ない
- 8 同級生が少ないので、たくさんの考え方を知る機会が少ない
- 9 他に「良くない」と感じる事があれば書いてください

(

)